

173

# 6月決戦員括集宏

日大全共闘理工斗委

数年采譜られたきた「70年6月決戦」は、数々の問題提起を残しつつ  
 終った。我々は6月に於ける斗争の質と更なる斗いに向けた斗いの質  
 と探究するべく京培をしなければならぬ。現存的に昨年の日大共闘  
 声浪により用いられた「沖州72年返還」策動をもつて東南アジア  
 ア諸国に対する帰路準備を着々と構築しつつある日本帝国主義者は、  
 沖縄基地の拡充強化を東南アジア米軍基地の再編強化の重要な一環  
 として位置づけ、更に沖縄東海岸一帯の理立てに伴う大工業開発計画  
 による石油の各種 を行つてきている。まさに国外に対する帝国主  
 義的再侵略と同時的に進行しつつある国内のあらゆる管理諸機関に対  
 する帝国主義的再編策動は、現存的に存在する階級の情勢に於いて总体  
 的に規定されてくる。これは68、69年の熾烈な日大斗争に対する、  
 敵軍力暴力装置の圧力的な予防反革命性の露定と、古田支配体制の見  
 事なまでの居重りによる学内アウシヨガイッツ体制が売徹されていること  
 をみれば明らかである。我々が日大のその現実を、あらゆる学部に於ける  
 学部当局、  
 学友会と一体となる、たところの右翼体育会系、右翼警備員による、  
 全くもって暴力的性格をバクワロしてこの斗争全この学友に対する強圧策  
 動が今も存在し、一方に於ける学生の強圧に対する日常化による無  
 関心、意識の又しからくる斗争のチンタイ化により斗争主体の問題も  
 存在する。日大全共闘としての斗いが、各学部斗争委員会を通しての集  
 約化、組織化の否定的現象をふきえる中において、その個別能力に対  
 する非台協的、非和解的斗争を6月をスチマフとすることをとしてい  
 る門ればならぬのだ。我々の斗いが真に国内に究極に配備された、  
 諸管理機関に対する徹底した破カイ、解体の質を有するならばこの我々  
 の存在基盤たる日本大学強権アウシヨガイッツに対する圧力的な斗い

を今更にも用意せねばならぬ。「6月決戦」を共闘隊を粉砕したなるか  
 るどといふことで勝利だ、たか敗北だ、たかどと見捨てることは、  
 一切をさし、ある意味に於いて我々には常に勝利も敗北も存在し  
 ているのだ。この6月斗争を果する日大斗争の内面的な階層を相取  
 るべくスチマフと、より広ハンは大衆的互人間的怒りを、そして大  
 衆的武装をもつて70年代階級の斗争に合流していこうとむはるか。

全この学友諸君！

6月決戦を我が黒旗の下に結集した理工斗委は、全組織性をかけて買  
 徹した。我々は常に40~50名の先輩の学友諸君とともに示した街頭  
 における力量をエネルギーを日大学内アウシヨガイッツ体制打倒の斗  
 いに帰結せしめなければならない。

全この学友諸君！

6月のあのバクワイするエネルギーを更なる斗いに転化せよ。学内に於  
 ける不断の斗いに決起せよ。

全この学友諸君！

「6月決戦」の斗いの成果をふきつつ、共闘集会に結集し、今後の  
 斗いを、不断の斗いを圧力的な爆発をもつて展開していこう。

17:00

173 コード

173